



シルクロードと一带一路 (シルクロードの始まり)

9月①のごあいさつ
山内公認会計士事務所
2022年9月1日(木)

シルクロードと言えば、第一に頭に浮かぶのは漢の張騫である。
漢の武帝が、宿敵匈奴を挟撃するために西域の大月氏国へ送った使者である。
張騫の二度の西域行は当初の軍事目的は達せられなかったが、中国と西域の通商と文化の交流に初めてと言える貢献をした意義は大きい。
尚、「シルクロード」という名称は、19世紀にドイツの地理学者リヒホーフエンがその著書において使用したのが最初ということである。

シルクロード交易は、中国、インド、ヨーロッパの長距離の政治・経済関係を築くことで、文明発展に重要な役割を果たした。史記には、その国々はイラン、アレキサンドリア、ローマ、シリア、インドなどと記されている。これらの国々にシルクをはじめとする中国の財貨を持ちこみ、それぞれの交易国の様々な物産を中国に持ちかえったのである。

その交易は、中国から輸出されたシルクの他にも仏教、哲学、科学、紙や火薬などの技術の経済的貿易に加えて、そのルートに沿った文明間の文化的交易路ともなった。ペスト等の病気もシルクロードにより伝播したという。

具体的には、ユーラシア大陸北方の草原地帯のルートである「草原の道」。中国の西安から北上して、モンゴルやカザフスタンのステップ地帯を通り、アラル海やカスピ海の北側から黒海北側の南ロシア草原に至る古来からの交易路、この地に住むスキタイや匈奴、突厥といった多くの騎馬民族が、東西の文化交流の役割をも担った。

「オアシスの道」は、東トルキスタンを横切って東西を結ぶ隊商路である。長安を発って、蘭州市のあたりで黄河を渡り、河西回廊を経て敦煌に至る。

それから先は三つに分かれる。

一つは、天山山脈の北側を通りイリ川流域に至る「天上北路」。

一つは、敦煌からクチャを経て天山山脈の南麓に沿ってパミール高原に至る

「天山南路」。

そして、もう一つは、タクラマカン砂漠の南側を通るルート。敦煌から崑崙山脈のオアシスを辿ってパミール高原に達する「西域南道」である。

参照：司馬遷 史記(徳間書店)、Wikipedia、シルクロードの旅 陳舜臣 (2021年講談社)